

令和元年度学校運営協議会活動状況報告

令和元年度は学校運営協議会を2回実施しました。参加していただいた委員の皆様と1回目は令和元年6月25日にコミュニティ・スクールについての説明、避難所開設における取組の説明及び意見交換を行いました。2回目は、令和2年2月20日に2つのテーマ（交流及び共同学習の継続について、地域資源の活用について）に沿って班に分かれ熟議を行うことができました。

1 令和元年度松橋東支援学校運営協議会委員の皆様

池邊顕嗣朗様（熊本県こども総合療育センター 所長）

柳教子様（熊本県くすのき園 副園長）

松本一彌様（退職校長）

池上秀昭様（宇城市立豊福小学校 校長）

沼田宗生様（熊本こすもす園 園長）

岩岡憲二様（豊福校区代表 区長）

岩井智様（宇城市健康福祉部高齢介護課長第1回参加）

廣瀬武史様（宇城教育事務所 指導主事第1回参加）

那須寛様（熊本県立松橋高等学校 校長）

岩下愛様（宇城教育事務所 指導主事）

北村美穂様（宇城市子育て支援課 課長第2回参加）

坂井孝治様（宇城市障がい支援課 課長第2回参加）

今村優子様（本校保護者 PTA 会長）

2 協議会から出された主な意見

第1回

- ・熊本地震では高齢者、障がい者、妊婦等の方々の避難所の確保が難しかった。そのため昨年度、3校の特別支援学校（松橋支援、松橋西支援、松橋東支援）と宇城市は福祉避難所の協定を結び災害時の備えを充実させることができた。また、宇城市の避難所マニュアルが昨年度改訂された。
 - ・平常時に民生委員や消防団の力を借りて要支援者の把握をしておくことが大事である。
 - ・市内6箇所に防災センターを整備中。完成したら、福祉の町となるのではないかと。

第2回

- ・交流及び共同学習の継続や活性化について、直接交流だけでなく、インターネットやテレビ電話を使った交流などを模索する。
- ・地域資源の活用について、地域の食料改善グループが学校に出向いて調理交流を行うてはどうか。
- ・出身地の地域資源と関わることで、将来の生活に繋がる。

3 学校の取組

- ・8月に福祉避難所運営について、校内で担当毎に細やかな動きを確認した。
- ・11月に校内全体で福祉避難所開設訓練を実施し、反省をもとに「松橋東支援学校避難所運営マニュアル」を完成させた。
- ・学校間交流や個人交流については、インターネットやテレビ電話での取組も構築していく。
- ・幼児児童生徒の出身地とどう関わりを進めていくか、情報を収集していき、居住地交流の推進を図っていく。

4 その他

- ・テーマを設定し、事前にテーマに沿った資料を委員の方々に配付したことで、情報が共有された。
- ・次年度もテーマを決めて熟議を中心に進めていき、本校教育の発展に繋げていく状態で会を始めることができた。

地域とともにあるこれからの学校の姿を地域全体で共有



教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえつつ、課題に立ち向かい、乗り越えるための知恵と実行力を生み出していくために「熟議」を実施し、学校が、地域がどう子どもたちと関わるか考えることをみんなで考えます。